

第8回徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

と き 平成30年2月21日（水）午前10時00分から午前11時30分

ところ ホテル千秋閣（7階 鳳の間）

1 開会

2 中心市あいさつ

（徳島市第一副市長）

徳島市第一副市長の平山でございます。

本日は大変お忙しい中、第8回徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン懇談会にご出席いただきまして、ありがとうございます。また、日頃から委員の皆さまにおかれましては、徳島東部圏域の発展に向けた貴重なご意見・ご提言をいただきまして、この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、定住自立圏に関する国の動向としましては、地方創生の目標や方向性を示した「まち・ひと・しごと創生総合戦略2017改訂版」が昨年12月22日に閣議決定され、改訂した総合戦略には、定住自立圏の形成等を推進するとともに、地方公共団体自らは、圏域の特性も踏まえ、協定等に基づき推進する具体的取組に関し成果指標等を設定し、進捗管理を行うものと定められています。

こうした中、徳島東部地域におきましても、中心市である徳島市と近隣の11市町村との間で、現在2年目となります「第2次徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン」に基づき、さまざまな連携事業に取り組んでいるとともに、昨年度設定した各事業の成果指標等に関しましても、進捗管理を適切に実行することで、徳島東部圏域の継続的な発展、さらには、圏域住民の皆さんの住み慣れた地域での幸福な暮らしの実現につなげてまいりたいと考えております。

本日の懇談会では、本年度の取組状況や平成30年度における事業内容等についてご協議いただく予定でございます。委員の皆さまには、忌憚のないご意見を賜りまして、住民の皆さんが安心して暮らし続けたいと思える魅力ある圏域づくりに反映してまいりたいと考えております。

本日は、よろしくお願ひ申しあげます。

3 委員紹介

4 会長あいさつ

（会長）

四国大学の加渡でございます。

現在、地方を取り巻く環境は、地方分権の推進や行政ニーズの多様化に加え、少子・高齢化に伴う人口減少など、大変厳しいものがございます。

徳島県におきましても、今月発表された平成30年1月1日時点の県の推計人口は74万2,113人で、前年と比べて6,866人が減少しております。19年連続の減少でございますが、この6,866人の減少というのは、史上最大の減少幅となってしまいました。

同様に、東部圏域におきましても、前年と比べ1,921人と減少なってまいりました。

このような大変厳しい状況の中で、東部圏域に所属する市町村が、その特性と独自性を生かしながら、「集約とネットワーク化」により、この広域をどのように活性化できるのかを、皆さんで意見を出し合っ、ヒントにしていくというのが懇談会の目的でございます。活力ある経済圏をつかっていくためには、皆が幸せに暮らしていける生活圏を持続的につってっていくためにはどうすればよいか、委員の皆様からご意見を頂戴したいと思っております。

本日は、大変短い時間ではございますが、委員の皆様から、広域的・多角的視点からご意見を頂戴できればと思っておりますので、どうか活発なご議論をお願いいたします。

どうぞ、よろしく願いたします。

5 議事

(1) 第2次徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンの取組状況について

(事務局) **資料2** 定住自立圏形成協定に規定する取組(20項目)及び連携市町村一覧
資料3 第2次徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンの取組状況(平成29年度)に基づき説明。

(会長)

ただ今、事務局から現在進んでおります共生ビジョンの20項目の取組状況についてご説明をいただきました。まず、計画的に進捗するために成果指標を導入し、A・B・Cの自己評価が出ているということもチェックをいただきたいと思ひます。全体としては、概ね計画どおり進んでいるというようなお話しがございました。

それでは、これにつきまして、具体的な項目でも結構です。あるいは、圏域全体の連携についてでも結構ですので、皆様からご意見を頂戴したいと思ひます。どなたからでも結構です。いかがでしょうか。

(委員)

観光関係について、DMOが今年4月から本格的に始動するようですが、今の時点で分かっている範囲で構わないので、どのような方向に向かっているのかお聞かせ願ひたい。

また、この間とくしまLED・デジタルアートフェスティバルが開催されましたが、今回は主な会場が4つあり、それぞれ離れておりましたので臨時バスの運行などもあり、色々と満足していただけたと思ひますが、毎年この時期だけのイベントなので、年間を通じて、徳島に行ったらLEDが見られるというようなことも検討していただきたい。今回の開催は県と市両方での運営になり、体制は良いと思ひますので、できれば冬の寒い時期も良いのですが、夏の開催についても検討していただきたい。

それからもう1つ、防災の関係で、現在県庁は、新規採用職員に対して防災士の取得をしているので、各市町村においても、職員をはじめ、賛同してくれる住民に対し、防災士の資格取得を呼びかけていただきたい。やはり、いざというときには、防災の資格を持ったリーダーが必要ですので、是非とも検討いただきたいと思ひます。

(担当者部会事務局)

まず、DMOにつきましては、現在、徳島市を含む徳島東部圏域12市町村に鳴門市、阿波

市、吉野川市を加えた15市町村及び25の民間事業者等の40団体で設立に向けた準備委員会を発足しております。1月30日に第3回の総会を開催しまして、その中で主な事業計画や組織・実施体制、どのような形で民間事業者の方に出資いただいて事業を進めていくのかなどについて報告し、承認されました。今後は、法人設立に向けた手続きを2～3月に行うなど、平成30年4月に予定しております法人設立に向けた取り組みを進めている状況でございます。

(担当者部会事務局)

とくしまLED・デジタルアートフェスティバルにつきましては、2月9日から18日まで開催させていただきました。従来、徳島市のみで開催しておりましたが、今回は、徳島県と連携してとくしまLED・デジタルアートフェスティバルを開催いたしました。ご質問にありました冬の開催につきましては、夏は全国的に有名な阿波おどりがございますが、徳島にはあまり冬場の観光イベントがございませんので、冬場の観光イベントの定着ということで実施させていただきました。

また、年間を通じて徳島ではLEDがあまり見られないということがございますが、新町川に架かる両国橋やふれあい橋、新町橋、春日橋などに常設のLED景観整備を行っているほか、徳島県におきましても文化の森総合公園にLEDの作品を展示するなど、一步一步ではございますが徳島と言えばLEDというような景観整備を、今後も進めてまいりたいと考えております。

(事務局)

防災関係につきましては、圏域の市町村で防災士の資格の取得にどのくらい取り組んでいるかというようなデータ等は、本日持ち合わせてはおりませんが、南海トラフ地震に加え、中央構造線・活断層地震ということも言われておりますので、防災対策にはしっかりと取り組んでいく必要があるということは、圏域市町村で認識しておりますので、先程いただいたご意見を参考に、しっかり取り組んでまいりたいと考えております。

(会長)

DMOのお話でしたが、DMOと言いますと元木委員が関わっておられますので、何か新しい取り組みなどございましたらご紹介をお願いいたします。

(委員)

DMOの立ち上げにつきましては、私も設立準備委員会推進会議のメンバーとして関わっておりまして、先程の説明にもありましたように、4月の設立に向けて準備は順調に進んでいると認識しております。官民が一体となるDMOの組織は、自治体と民間事業者からの出向のほか、専門人材として外部から2名のプロパー職員を招き入れまして、今のところ、代表を含め10名程度の人員でスタートする予定となっております。

この組織は、新たに観光の旗振り役を担うということで、現在取り組んでおります徳島東部地域の12市町村による観光の連携事業とどのように棲み分けていくのか。同じことを行っても仕方がないので、例えば、広域の観光プロモーションはDMOに任せ、地域のイベントや着地型観光といった、地元の方にこそ地元の魅力をもっと知っていただくような『観光の地産地

消』のような取り組みを、定住自立圏の枠組みで、これまでと同じようにやっていただけたらと思います。今後は、取り組む事業についてどのように棲み分けを行うのか、ということ整理していく必要があると思っております。

(会長)

『観光の地産地消』というキーワードをいただきました。
そのほか皆様いかがでしょうか。

(委員)

3点意見を陳べさせていただきたいと思っております。

まず1点目ですが、道路などの交通インフラ整備について記載いただいておりますが、この交通渋滞の対策だけでなく、これから高齢社会がさらに進んで行く中で、公共交通網をいかにつくっていくのかということが非常に重要かと思っております。全国的に進められている公共交通網形成計画を今後立案されていく市町村があることと思っておりますが、各市町村だけで独自に計画を立てていくだけではなく、市町村間の連携が非常に大事になってくるのではないかと考えます。その時に鉄道が公共交通の一つの柱になりえます。それを補完する形でバスの交通網が形成されるべきであると考えています。現在、鉄道では、等間隔ダイヤなどを検討されていると伺っております。そういう中でバスについては、市町村で運営されていることが多いかと思っておりますが、バスとの連携についても、等間隔ダイヤなどでサービスを向上させようとするすると色々と整備も必要ということですので、こうしたものにいかに連携して投資していくかということを検討していただく必要があると考えております。

2点目は、道路整備に関してですが、今後道路、特に橋梁のメンテナンスが非常に重要になってきます。このメンテナンスについてですが、高度な技術が必要とされており、十分なメンテナンスを行うだけの人員やノウハウを各市町村独自で持つということは非常に難しいと、全国的に言われております。こういう中で、国や県も含めまして、いかに効率的に道路や橋梁のメンテナンスを行っていくかということが重要だと思っております。

3点目は、今後非常に大きな災害が発生する危険性がこの地域にも十分に存在しております。南海トラフ巨大地震が発生した場合には、各市町村とも大きな被害が起こればと考えられますが、その時にも、いかに連携してその事態を乗り切っていくかという体制を検討していただく必要があると考えております。もう1つ、南海トラフ巨大地震だけでなく、今後吉野川が大氾濫する危険性も指摘されております。そうした洪水に関しても対応するとなると、個別の市町村で被害が起これるわけですが、そこに周辺の市町村がどのような対策をしていくかということ、日頃から検討していただく必要があると考えます。

(担当者部会事務局)

ハードのメンテナンス関係についてお答えいたします。特に橋梁の場合、徳島市は多くの橋梁を管理しております。これらにつきましては、来年度に長寿命化計画を立てまして、優先順位を決め、国の補助金を受けながら長寿命化を図ってまいります。メンテナンスの手法につきましては、現在、国、県、各市町村が集まる徳島道路メンテナンス会議がございまして、この会議の中で、より効果的なメンテナンス方法などについて、国を中心に情報共有しながら検

討していきたいと考えております。

(事務局)

公共交通や災害関係についてでございますが、定住自立圏におきましては、防災に関する担当者部会を設けておりませんので、本日の会には担当部署は出席しておりませんが、頂いたご意見をしっかりと伝えまして参考にさせていただきたいと思っております。

(会長)

「圏域内外を結ぶ道路網の整備促進」という施策は、全ての市町村が参加して取り組んでいる項目でございますので、是非今後検討を深めていただければと思っております。

今日は皆様、様々なバックボーンからご参加いただいておりますので、それぞれのお立場からご意見を頂戴できればと思っております。

それでは、連携市町村の数が多い取り組みからお聞きしたいと思うのですが、子育て環境の充実というのは非常に多くの市町村が取り組まれております。

(委員)

病児保育の進捗状況が入っておりますけれども、大変心強いと思っております。進捗評価がAになるということは、病児病後児などの福祉分野の政策をさらに充実していくのか、または新たな取り組みの案があるのか、それを私たちが提案すべきなのか、また教えていただきたいと思っております。

とくしまLED・デジタルアートフェスティバルの開催の際に、籠屋町商店街のスキップでもパンフレットを置かせていただきましたが、小さな乳幼児等を連れてお母様方がこの寒い時期にどのようなコースで回れば効率よくフェスティバルを楽しめるかということを広報したいと思い、スキップのスタッフで下見をしてコースをいくつか作りました。色々と調べているうちに、全国でも早くから「赤ちゃんの駅」、「赤ちゃんステーション」と言って、おむつ交換や授乳などができる場所がある施設にのぼりを立てて表示するという取り組みを、徳島市も昨年度からされていまして、フェスティバルの会場でもあります中央公園のインフォメーション横に、移動式の「とくしま赤ちゃんの駅」のテントを設置されていたうえに、暖房もつけていただいております大変感激いたしました。現在、共生ビジョンの福祉分野におきましては、病児病後児の取り組みばかりで、その充実はありがたいのですが、あまりお金をかけずに、できるのであれば東部圏域のイベントでも赤ちゃんの駅のテントがあれば非常にありがたいなと思えました。赤ちゃんの駅のおむつ交換や授乳できる場所が、災害等の発生時にも非常に役に立つのではないかと思いますので、東部圏域でもっと増えてもいいかなと思えました。

とくしまLED・デジタルアートフェスティバルにつきましてもパンフレットを見させていただきますと、フェスティバルの開催時以外にも、新町川やふれあい橋、文化の森、阿波銀行のエントランスなどでLEDの作品が常設展示されているということですので、こうした常設のLED作品を紹介したパンフレットがありますと、スキップから子育て世代の方に発信できるのかなと思えました。

(委員)

待機児童の解消と保育士の不足が今一番問題になっておりますので、共生ビジョンの取り組みとして広域保育を実施していただけないかいつも思っております。例えば、実際に住んでいない地域でも働いている職場の地域に入れるとか、結婚して住所が変わっても元の働いていた地域に入れるとか、鳴門市では広域保育が実施されているので、進めていただけたらと思っております。

(担当者部会事務局)

まず、病児保育の評価について、資料3の3ページで進捗評価をAとさせていただいております。病児保育につきましては、病気になられたお子さんが保育所に預けられなくなりますので、一旦病院等で預かっていただくという制度でございます。まずは、定員を確保いたしまして、必要に応じて待つことなく使用していただけるということが一番でございます。今のところ、病気が集中するような今の時期、インフルエンザが大量に発生して病院等が不足する場合がありますけれども、概ね待たれることなく使われているのではないかと思っておりますので、そういったことも見込みまして評価をAとさせていただいております。

次に、赤ちゃんの駅のお話がありました。とくしまLED・デジタルアートフェスティバルの中で、中央公園に移動式の「とくしま赤ちゃん駅」というテントを設置させていただきました。多くの方に使っていただいたと伺っております。また、LEDのパフレットにもこの紹介をさせていただきました。また4箇所ある本部席ではスタッフの方に、企業にご協力いただいております。民間の施設で、無料でおむつ替え等ができる場所についてもご紹介いただくなど、多くのご協力をいただいたと伺っております。それから、赤ちゃんの駅の広域利用は、徳島市の独自事業ということで、徳島市内の企業のご紹介などをホームページで公開しているところでございます。移動式の赤ちゃんの駅につきましても、今のところ徳島市内での利用ということにさせていただいておりますけれども、ご指摘のとおり、東部圏域で実施してもいい事業だと思っておりますので、今後検討させていただきたいと思っております。

それから、待機児童の話で広域入所の話がございましたけれども、どの市町村も、待機児童の解消に向けまして、まずは量の拡大、保育士の処遇改善など、こちらは国の制度を色々活用しまして平成29年度は最大4万円の処遇改善が行われたところでございます。広域入所につきましては、制度的には一応ございます。例えば、徳島市の住民が小松島市の企業で働いていて、小松島市の保育所に入りたい場合に、広域入所という制度はございます。ただ、まずはその市町村の住民の方をどこの市町村も優先して受け入れていると思いますので、なかなか広域入所では入れないという現実はあるのですが、どの市町村でも働いている場所に最も近い所に入るという制度は一応ございますので、まずは量の拡大が必要ではないかと思っております。

(委員)

地域づくり活動の育成・支援の項目について、徳島市の市民活力開発センターでは、若いスタッフさんが多く活動されているかと思えます。今のところ、「サンタがお家にやってくる」の事業はかなり定着して活動されているということなのですが、例えば、各市町村で色々な活動があるかと思えますので、市民活力開発センターのメンバーがそうした情報を把握し、県内の大学生などの若い人たちを各市町村の活動につなぐような仕組みがあればいいと思います。実は以前の徳島LEDアートフェスティバルの際に、四国大学と徳島文理大学の学生をアート作

品の作家さんをつないでいただいたのが、市民活力開発センターのメンバーによるものでした。そうした形で、色々なところに地域の活動があると思いますので、市民活力開発センターをうまく活用していただいて、若い人たちと地域の活動をつないでいただけたらと思います。

それと、とくしまIPPIN店のガイドブックですが、もったいないと思っております。非常に良いものができあがっているのに、なぜこれに特典をつけないのか。例えば、ガイドブックに掲載されているお店に行くと、何かサービスが受けられるようにするとか。ジュースがいただけるとか1割引になるなどの特典がガイドブックについていれば、今年度新たに実施したとくしまIPPIN店を巡るスタンプラリーのチラシも要らないですよ。できれば1冊で全てが賄えるようなガイドブックを目指してみたいと思います。例えばガイドブックにスタンプやシールを貼るようにして、それが集まると抽選ができるようにするなど、ガイドブックを利用した取り組みを行っていくと、もっと多くの方にガイドブックを知っていただけるうえに活用もしていただけるのではないかと思います。

(事務局)

若い大学生の方々にも色々な活動に参加していただけたらというご提案ですが、中心市の徳島市では、平成25年度から市内の3大学と連携協定を締結しておりまして、学生の皆さんにも色々な企画に携わっていただいたり、活動にも参加していただいたりしております。そういった若い人たちの視点を生かした、また取り入れた活動は、非常に重要だと思っておりますので、近隣市町村にも広げていく工夫も必要だと感じております。

(担当者部会事務局)

とくしまIPPIN店のガイドブックにつきましては、今年度新たに3点をリニューアルいたしました。まずA5サイズに変更し、料理の写真を大きくしてメニューなどを分かりやすく表示いたしました。それから、徳島市内を5分割、周辺の市町村を3分割にして、エリア別にとりまとめて掲載することで目的の店舗を探しやすくいたしました。また、特産の野菜につきましては、興味がわくようにコラムを掲載いたしました。ご指摘のありましたガイドブックに特典をつけてはどうかという点につきましては、今後検討してまいりたいと思っております。

(会長)

まだまだご意見を頂戴したいところではございますが、あと1つ議事が残っておりますので、事務局よりもう1つ説明を伺ってから、さらに最後の意見交換にまいりたいと思います。

(2) 第2次徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンの変更について

(事務局) **資料4-1** 第2次徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン(変更案)に基づき説明。

(事務局)

第2次徳島東部地域定住自立圏共生ビジョンの変更については、以上のとおりでございますが、昨年11月に、共生ビジョンの取り組みにかかる参考資料を委員の皆さまにお送りさせていただいた際に、今後の新たな取り組み等について、アンケート用紙によりご意見やご提案を

いただきました。

いただきました主な内容を、口頭で報告させていただきますと、共生ビジョン全体に係る意見としましては、「圏域住民の交流が生まれるような取り組み」や「県と連携した事業を開催する仕組みを検討してほしい」、また、「高齢者が生きがいを持って活動できる事業を行うことで、医療費不足や介護費用の減少につながる」といったご意見や、「従来の事業を特別交付税の対象事業として計上する取り組みに留まっているものも多いのでは」というご意見、「各事業とも周知が効果に大きく左右されるので、市町村の広報紙などにコーナーを設けてみるのも良いと思う」など、広報面に関するご意見もいただきました。

各施策にかかるものとしましては、とくしまIPPIN店のガイドブックに関して、「探しやすい、見やすい」、「見ていて楽しい」とうご意見の一方、「ガイドブックにより、何かサービスが受けられるような仕組みが必要」、「スタンプラリー事業を知らなかった、広報面を強化してほしい」とのご意見をいただきました。

また病児保育事業に関しまして、「利用対象地域以外の受入緩和策を進めてはどうか」、観光開発・観光誘致にかかる意見として、「DMOを早く本格化させて、県全域にわたる観光面の強化に早急に取り組むべき」などのご意見をいただきました。

いただきました貴重なご意見につきましては、今後の共生ビジョンの「具体的事業」の推進にあたりましてしっかり参考にさせていただきます。

(会長)

事務局から説明がございました共生ビジョンの変更点あるいはアンケートに関する回答につきまして、皆様からご意見をいただきたいと思いますが、これに関することあるいは先程の意見交換の続きなど何からでも結構でございますので、いかがでしょうか。

(委員)

移住・長期滞在の取り組みの推進についてですが、UIJターン促進事業により移住促進を図ったと取り組みが紹介されておりますが、具体的にどのようなことをされたのか、またその成果について教えていただけたらと思います。

(担当者部会事務局)

UIJターン促進事業についてでございますが、徳島市では、中小企業の人材確保という観点から実施しているところでございます。こちらにつきましては、県外の大学生や県外で働いている方を地元の企業へ戻っていただく、他県から来ていただくことを目的としておりまして、例えば、助成対象経費でございますが、合同就職ガイダンス等に参加するための旅費及び出展等に関する負担金でございますとか、企業がコンサルタント会社に対し人材確保のためのコンサルティング業務を依頼するときの費用でございますとか、それから全国規模で運営されている就職情報サイト等への会社情報の登録、あるいは、県外人材の採用に係る企業訪問を促すための中小企業が負担した交通費などにつきまして、助成金を出しているところでございます。徳島市の平成28年度の実績でございますが、就職等奨励金につきましては19名の方に奨励金を出しております。人材確保の支援といたしまして、合同就職ガイダンス等に関しては5件、コンサルティング会社に委託した企業に関しては6件、交通費支給に関しては11件、就職情

報サイトに関しては6件等の助成金を支給したところでございます。

(委員)

中小企業の雇用促進ということで、良い取り組みだと思えますが、小さい子どもを持った女性が働ける場所とか、何か働きやすい環境の整備、フレックスだとか、在宅勤務ができるとか、そういったことも移住を促進する施策の一つかなと思いますので、そのあたりもご検討いただければと思います。

(委員)

福祉の分野では、高齢者に対する支援が入っていないようです。最近、高齢者につきましては、在宅介護の傾向があるようですけれども、家族がいれば在宅介護も行えますが、独り暮らしの方の在宅介護は難しいと思います。私の近所に住んでいます90歳くらいの高齢者の方は、夜中でもベルを押すと自宅に看護師さんが来てくれるようなサービスを受けているようですが、こうした高齢者の在宅介護の現状などについては、余り知られていないようです。先程の高齢者の方も、ヘルパーさんが紹介してくれてサービスを知ったようです。在宅で最期を迎えたいという方が増えているようですが、実際には多くの方が病院や施設で亡くなられています。このような方々を、在宅で最期を迎えるようにするためには、どのような取り組みが必要なのでしょうか。

もう1つ、先程会長さんもあいさつでおっしゃられていましたように、少子高齢化による人口の減少が急速に進んでおります。高齢化は仕方がない面もあるとしましても、少子化については、どのように克服していくのが非常に大切だと思いますので、現在少子化対策としてどのような施策を行っているのでしょうか。

(委員)

福祉分野に関しては子育て環境の充実ということで、病児保育事業の利用者数が増えているということでしたね。子どもが病気になったときに預ける施設があるということは大変ありがたいことですが、私は、子どもにとってお母さんがそばにいたことが一番良いという考えを持っております。そのため、子どもが病気になった場合には、職場の有給休暇の利用など、お母さん方が職場において休みやすい職場づくりが重要ではないかと思っております。

(事務局)

高齢社会の中で介護の問題というのは非常に大切であると思っております。この定住自立圏におきまして、新たにそうした取り組みを実施するとなりますと、協定の変更や議会の議決などが必要になりますので、早急に行うことは難しい面もございますが、他の圏域の取り組みなども今後研究してまいりたいと思っております。

少子化対策につきましては、現在人口減少対策ということで、各市町村とも地方版のまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定し、少子化対策をはじめ、地方創生に向けた取り組みを進めております。徳島市で申しますと、4つの基本目標を掲げまして、雇用の創出や出生率の向上、にぎわいの創出により県外への人口流出に歯止めをかける、また徳島市に住み続けたいと思っていただく市民の割合を向上させるといった、それぞれに目標を掲げて取り組んでいるところ

でございます。

(担当者部会事務局)

女性が働きやすい職場環境づくりということだと思いますけれども、国では働き方改革の実現として、ワークライフバランスの取り組み等を推進しているところでございますが、徳島市におきましては「職場環境改革・働き方改善宣言企業」ということで、制度整備をした企業に対して奨励金を交付している事業がございます。これは、例えば休暇制度やフレックスタイム制度など、色々な制度を導入した企業が宣言をしまして、実際にそうした制度を企業として就業規則等に取り入れた場合に奨励金を交付する事業でございます。この事業については女性に限らずというところもあるかと思いますが、皆さんが働きやすい環境をつくるための呼び水になるような宣言ということで実施させていただいております。特に、今のところ各企業から休暇制度等が出てきていますのは、有給休暇ですと、1日単位でしか取得できない企業が多くありますが、これを時間単位で取得できるようにしております。時間単位で有給休暇が取得できますと、お子さんのことで何か所用ができたときに、お母さんが1時間あるいは2時間単位で休暇を取ることにも可能になります。この事業を通じ、少しずつではございますが、女性が働きやすい環境をつくっていただけるのではないかと考えております。

(会長)

圏域内の全ての市町村が参加して取り組んでいる中で、地域特産品を生かしたブランド化及び地産地消の推進という項目がございますが、この取り組みに対してはいかがでしょうか。

(委員)

先程ご意見がありましたとくしまIPPIN店の件ですが、秋に事務局からチラシをお送りいただいて、その時に初めてこの事業を知りました。これまで継続して実施されてきた取り組みのようですが、地方に住んでいますと情報はやはり遅いですよね。色々な取り組みも、中々住民のところに届くのは難しいですよね。色々な取り組みをする中で、広報という部分は本当に大変だと思います。とくしまIPPIN店を巡るスタンプラリーなどの取り組みは、住民が楽しく参加できる取り組みであるとともに、参加することで東部圏域の連携事業のことも知ることができますので、本当に良い事業だと思いました。ただ、先程のお話にもあったとおり、とくしまIPPIN店のガイドブックは、立派なパンフレットですけれども、このパンフレットにかかる経費等を少しでも住民への周知に回せれば、もう少し多くの方が事業を知ることができるのではないかと思います。

こうしたパンフレットなどが、私どもの勝浦町のどこに置かれているのかということも分からなかったのですけれども、私どもの町のように人口の減少が著しいと、生活圏を持続的に守っていくということが本当に切実な問題になってきます。そうしたときに、いかに市町村の職員の方が、こうした問題を日頃から踏まえて仕事ができるかによって、成果が大きく変わってくるのではないかと考えております。と言いますのも、市町村の職員全体で言いますと、こうした問題のことをまだよく知らないという職員の方もいらっしゃると思いますので、先程報告のありました圏域内市町村職員人材育成事業における職員合同研修会の進捗評価がA評価だったかと思いますが、やはりこういった取り組みは継続的に続けていただけたらなと思いま

した。

(委員)

「地域特産品を生かしたブランド化」や「地産地消の推進」といったことは、これまで何度も言い古されておりましたが、こうした事業の効果につきましては中々見えませんよね。特産物のブランド化も地産地消についても、良いものを大量に持っていればブランドとなりうるのですが、それをどのように宣伝して広げていくかが問題になります。現在行っている取り組みが悪いと申し上げているのではございませんが、予算や実施方法などが効率的かということは検証すべきだと思っております。私は農業を長年やっておりますので、こうした事業の効果があらわれることで農家の所得が増えれば、後を継ぐ方も出てきますので、ありがたい話ですけどもね。

もう1つ、先日、ハローワーク鳴門の所長から、鳴門市の求人倍率は2.0、徳島県が1.5、徳島市が1.2くらいと聞いたのですが、こうした状況を考えると農業に来るような人がいないですよね。農業は大変だし、給料的にも確保できないです。ただ、私はよく現場を回って考えるのですが、農業というのは1年のうち特に忙しいのは6～7ヶ月です。雪が多く降る東北や北海道の人は、冬時で7ヶ月くらいは勤めて、あとは失業保険で米を作るといったような働き方も、今の若い人たちにすると、それくらい働いて後は遊んでいてもよいと考える人もいるのではないかと思います。また、省力化施設を何億円もかけて作っておりますけれども、こうした施設で働いていただける元気な人、例えば1日に10キロのコンテナを3千ケースほど積み上げられるような若い人は、中々確保できないですね。人手の確保に関しては、農と福祉の連携やベトナム等の外国人研修生の受入制度などで少しは緩和していると聞きます。管理組合自体の受け入れは厳しくなっておりますが、農協団体がそうしたところで働く人を雇い入れるということも可能になると聞いておりますので、そういう方向にもアンテナを立てて実施してまいりたいと思っております。定住自立圏の取り組みは、地域で儲けて人を呼び込もうという話ですので、こうした人手の確保の協力をお互いの市町村で連携してできればと思います。他の県にはそういう取り組みがありますので、徳島県でもこのようなことができれば非常にありがたいですね。

(担当者部会事務局)

とくしまIPPIN店の広報につきましては、平成28年度までは有料の新聞広告も活用しておりましたが、宣伝効果や経費節減の観点から見直しを行いまして、今年度からは徳島市の広報紙や広報番組など、こういった無料の広報媒体を活用して実施しております。

また、今年度から新たにスタンプラリーを実施いたしました。新たに開始した事業で、あまり浸透ができていなかったということもありましたので、来年度に向けまして見直しを行いながら、さらなる認知度の向上を図っていきたいと考えております。

(委員)

私が活動していることで気がついたことなのですが、定住自立圏の取り組みに関するパンフレットが色々できてきているようなのですけれども、私どもの施設にも「パンフレットをご自由にお持ちください」と常に置いておりましたが、大抵のものが無くなっています。そのため、パ

パンフレットがどこに行けばいただけるのか、例えば徳島市関連のものだとどこに行けばいいのですか。観光でも何でもいいんですけどね。この懇談会でこうして報告されているものやそれに関連するパンフレットなどがあるとしたら、一般人が見たいようなパンフレットというのは、どこに行けばあるのでしょうか、と思いました。

(事務局)

徳島東部地域定住自立圏の取り組みを紹介するPR情報誌「結ぶ」という冊子で申しますと、各自治体の役場に置かせていただいているほか、観光案内ステーションや圏域内の阿波銀行や徳島銀行の各支店、イオンモール徳島などにも設置させていただいております。ただ、各委員の皆様からあまり見たことがないというご指摘をいただきまして、配布は行っておりますが、周知が足りていないと事務局としては思っております。

(委員)

分かりました。私どもにもいただけるとありがたいです。

それと、私が思ったのですが、それぞれ活動している団体が、自分たちが何をできるかというのをアピールしてもいいと思いますよね。阿波おどりの練習に私どもの倉庫を使っています。阿波おどりは開催期間だけに人が多くの人が集まりますが、その練習風景を例えば所用や営業で徳島県に来た方に見ていただいたら、とても親しみやすいと思いますよね。普段から徳島に来られている方に聞くと、阿波おどりの開催期間は多くの人で賑わうため、来られないという方がとても多いです。そうすると、ビジネスホテルなどに呼びかけて、マイクロバスなどで阿波おどりの練習場所に案内し、阿波おどりの連の方にも協力いただいて、少し練習していただくだけで、とても阿波おどりが身近に感じていただけるのではないかと思います。阿波おどりの開催期間中は何もかもが高くなって、訪れにくい徳島ではなく、普段の徳島の良いところをアピールしたらと思います。私どもとしてできることは、施設が水辺にあるということで、阿波おどりの開催期間中に実施している「阿波おどりヨットレース」に多くの学生さんたちが船に乗って来られますが、宿泊場所がないために引き波で木の葉のように揺れながら船の中で寝ていましたので、思わず私どもの倉庫を提供して、それから5年、毎年私どもの倉庫で寝泊まりしてもらうようになりました。布団も何もないのですが、船の中で寝ているよりはましですし、夏なのでマット1枚あれば皆十分に休んでいただけていますし、「毎年本当にお借りしていいのですか。」と打診いただきますが、私たちのできることはそういうことかなと思っております。皆さんもそれぞれの団体から、場所でなくてもノウハウとか、色々と提供できるものがあると思います。そういった皆さんが提供できるものを集約して、提供していければ、徳島ってもっと魅力的な場所になるのではないかと思います。

もう1つですが、よく「公共交通機関でお越しく下さい。」と言いますが、あまりに不十分な言葉だと思います。例えば東京の渋谷駅から代官山駅に向かって、東急バスが運営している女性が運転する10人程度が乗れる小さいマイクロバスがあって、これが裏通りをずっと走るんですよ。ボタンを押すとどこでも停まってくれます。長距離な場所への移動は公共交通機関で大丈夫だと思いますが、これから高齢化でバス停に行くのも大変になっていくうえ、駅に行くことなんてとんでもないことになっていくと思います。そのため、こうした駅から駅へと裏通りを走行する小さなマイクロバスみたいなものが徳島にもあってもいいのではないかと思います。

す。到着時間も渋谷では確か10分置きくらいにバスが到着していたと思いますが、徳島ではそこまでできなくてもせめて決まった時間に、乗り場に行く乗車でき、また鉄道に乗って帰って来たら、決まった時間にマイクロバスに乗車できるという安心感と安定感があれば、問題はクリアできると思いますが、いかがでしょうか。

(委員)

私は、情報（ITC）分野の委員でございますので、「情報システムの共同研究」に関しましては、事務局から説明いただいた資料3の22ページにありますように進捗評価をAということで特に申し上げることはございませんが、所属するe-とくしま推進財団について、一言紹介させていただきます。eというのはエレクトロニック、電子の力で、さらにもう1つは最近で言いますと「いいね。」のeでございます。かつてはGOOD「ええな。」ということで、電子の力でええ徳島をつくろうということで設立させていただいた団体でございます。市町村の皆様から3分の1、民間の皆様から3分の1、県から3分の1の出資をいただきまして、現在では協賛会員ということで4つの大学からも協賛をいただいたりしておる団体でございます。もっぱら情報化の普及啓発をさせていただいております。当初はICTということでインフォメーション&コミュニケーションテクノロジー、情報通信技術の普及啓発が目的でしたけれども、今ではIoTとかAIの普及のためのセミナーなどもさせていただいております。そこで、共生ビジョンにあります情報システムの共同研究が順調に進んでいるということですが、研究や情報交換を行う際に、是非私ども財団も使っていただけたらと思います。と申し上げますのは、私たち財団は日常的に、四国大学や徳島大学の情報通信関係の先生方とお付き合いさせていただいておりますし、また四国電力グループやNTTグループの関係の方々とか、それから富士通やNEC、カスペルスキーの皆様など、色々な方とお付き合いがございますので、情報システム共同研究事業の研究会において、誰か助言者が必要であるというようなことがございましたらお手伝いができるのかなと思っておりますので、ぜひご活用いただければありがたいと思います。

(会長)

まさに団体が持っているノウハウ・技術を皆で共有しようというご提案でございました。先程ご提案がありました、コミュニティの小さな交通手段といったものの検討は進んでらっしゃるのでしょうか。

(事務局)

公共交通・コミュニティバス関係に関し、貴重なご意見をありがとうございました。徳島市では、例えば徳島駅周辺のまちづくり計画ですとか、立地適正化計画などに取り組んでおりますので、参考にさせていただきたいと思っております。

(委員)

人に定住してもらおうということで、先程の大学生との交流を深めて、もっと県外から徳島に来ている大学生に徳島の良さを知ってもらい、その人たちにも徳島に住んでもらえるような広

報を考えてはどうかと思いました。

それと、徳島市役所の職員の皆さんのうち、未婚の方が何%いらっしゃるかわかりませんが、やはり結婚してもらおうということを、どんな形であれ進めていくべきだろうと思います。確か、調査などによりますと、結婚したいけれども、結婚していないという人が多いというデータや、子どもも欲しいという人が多いけれども結婚はしていないといったデータがあったと思います。実は、北島町にあります金融機関のある支店では、17人の行員の方がいるのですが、そのうちの12人が未婚という話も聞いておりますので、これから人口を増やしていく、少子化対策というのも、少しでも結婚してもらえる環境づくりを進めていくが大きいことではないかと思っております。

それと、徳島市に1つお伺いしたいのですが、阿波おどりは今年開催できるのかと。できないことはないと思いますが、不安もありまして心配しております。

最期に、先日JR徳島駅の地下にエキバルがオープンするとニュースで見たのですが、これも1つ交流の場になると思います。私は、高知の「ひろめ市場」が好きですが、あそこに行くのと地元の情報も得られますし、楽しい思い出もできますので、エキバルもそういう交流の場になればと思っております。徳島は美味しいものが沢山ありますし、楽しんでもらえるのではないかと考えております。

(会長)

皆様から大変貴重なご意見を頂くことができました。ありがとうございます。様々なキーワードが出ました。圏域で何をもって連携し何をもって共有するか、自分たちが提供できる資源は何なのかといったことをもう少し深掘りする必要があるのではないかと思います。人、それから制度や仕組み、あるいは情報をもっと協力的に広域的に活用できる仕組みをこれから整えていって、ビジョンに反映させていただければと思っております。

本日予定しておりました議題は、これで終了いたしました。

6 閉会

(徳島市企画政策局長)

本当にたくさんの観点から、様々なご指摘やご提言を頂きましてありがとうございました。現在徳島市では、徳島駅周辺のまちづくり、それから広域連携によるDMOなど、広域で連携して様々な取り組みを進めるということで、色々な取り組みの中心市として進めておるところでございます。今後ともそういった観点で、徳島県下の6割近い人口が集積している場所でございますので、徳島県をリードしていくような圏域になるべく、しっかりと頑張っていきたいと思っております。本日頂きましたご提言を、今後しっかりと検討いたしまして、良いご報告ができるように進めてまいりたいと思っております。

それと、阿波おどりでございますけれども、先般徳島市長も、これはまさに世界に誇るイベントでございますので、しっかりと8月に開催できるように進めていくという方向でとおっしゃられておりましたので、ご心配いただかないようにと申しますというか、その方向で見守っていただけましたらと思っております。

本日はどうもありがとうございました。

(事務局) 「会議録の公表」に関して報告

(会長)

ただいまの件、お手数ですが、皆様ご確認をお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、第8回徳島東部地域定住自立圏共生ビジョン懇談会を終了させていただきます。長時間にわたりまして議事進行にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

以 上